

2022年3月期 決算説明会

シスメックス株式会社
代表取締役会長兼社長 CEO 家次 恒
2022年5月13日

<会計方針変更について>

- 従来クラウド・コンピューティング契約におけるコンフィギュレーションまたはカスタマイゼーションコストについて、その他の非流動資産を計上していましたが、当連結会計年度より2021年4月に公表されたIFRS解釈指針委員会のアジェンダ決定に至る議論を踏まえて、クラウド・コンピューティング契約におけるコンフィギュレーションまたはカスタマイゼーションのサービスを受領したときにそのコストを費用として認識する方法に変更いたしました。それに伴い、2021年3月期、2022年3月期ともに連結および第4四半期単に遡及処理を行っております。（遡及前後の比較はP.22、P.23補足資料参照）

<本プレゼンにおける掲載内容の変更について>

- 地域別説明スライドについて、2022年3月期第3四半期までは、円貨、現地通貨で掲載していましたが、2022年3月期通期決算より現地通貨のみの掲載へ変更しております。円貨はファイナンシャルデータをご確認ください。

当社グループは、2017年3月期より国際会計基準（IFRS）を適用し、IFRSに準拠して開示しております。

本資料のうち、売上予想等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づき算出しており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化により、実際の業績等が予想数値と大きく異なる可能性があります。

Index

1. 2022年3月期 決算総括

2. 2023年3月期 業績予想

(補足資料)

- ・会計方針変更の影響
- ・単四半期実績
- ・所在地別実績

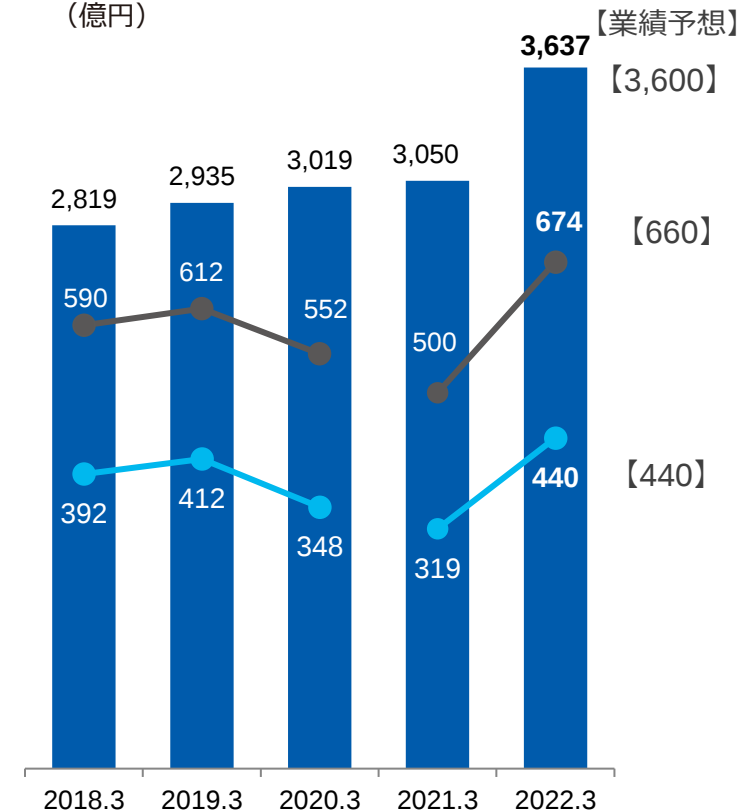
1.

2022年3月期 決算総括

決算総括：売上高、営業利益ともに過去最高を達成

(億円)	2022年3月期		前年同期		前年同期比	為替の影響	
	実績	構成比	実績	構成比		影響額	前年同期比 (為替影響除く)
売上高	3,637.8	100%	3,050.7	100%	119.2%	+213.5	112.2%
売上原価	1,731.9	47.6%	1,507.7	49.4%	114.9%	-	-
販売費及び一般管理費	942.3	25.9%	826.2	27.1%	114.1%	-	-
研究開発費	267.8	7.4%	225.1	7.4%	119.0%	-	-
その他の営業損益	△21.4	△0.6%	8.4	0.3%	-	-	-
営業利益	674.1	18.5%	500.1	16.4%	134.8%	+91.8	116.4%
親会社の所有者に 帰属する当期利益	440.9	12.1%	319.0	10.5%	138.2%	-	-

(億円)



● 前年同期に対し、2桁成長・増収増益を達成

- ✓ **売上高**：検査需要の回復、北米尿アライアンス、直販エリアの伸長、機器設置の増加、医療インフラ強化需要、COVID-19検査需要などのプラス要因により、大幅に伸長
- ✓ **営業利益**：増収と原価率改善による大幅な売上総利益の伸長、COVID-19影響に伴う販管費の減少などのプラス要因により、大幅に伸長

● 11月に上方修正した業績予想に対し、売上高・営業利益・当期利益のいずれも達成

● 外部環境変化の影響は軽微

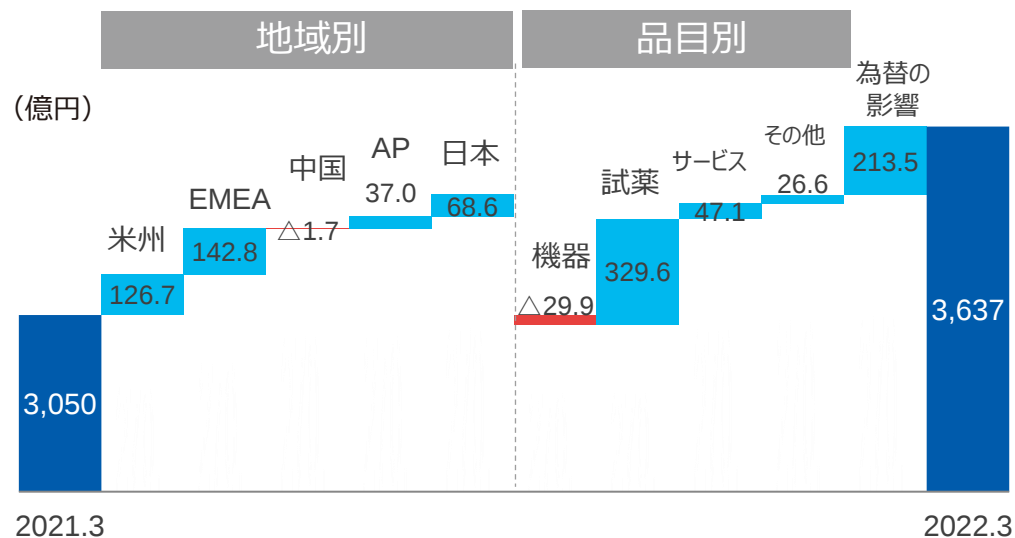
- ✓ 原材料価格高騰・品不足、物流コスト高騰、地政学的リスクの高まり、中国の都市ロックダウン など

	2022年3月期	前年同期
1USD	112.4円	106.1円
1EUR	130.6円	123.7円
1CNY	17.5円	15.7円

売上高の増減要因（地域別・品目別）

(億円)	2022年3月期		前年同期比	
	実績	構成比	円ベース	現地通貨ベース
売上高	3,637.8	100.0%	119.2%	112.2%*
米州	836.5	23.0%	127.0%	119.5%
EMEA	1,015.2	27.9%	123.6%	117.3%
中国	933.7	25.7%	111.4%	99.9%
AP	296.0	8.1%	121.1%	115.2%*
日本	556.1	15.3%	114.1%	-

*為替の影響を除いた円貨ベースの前年同期比伸長率



検査需要の回復、直販効果などにより、試薬売上が大幅伸長
中国を除く、全地域が2桁成長を達成

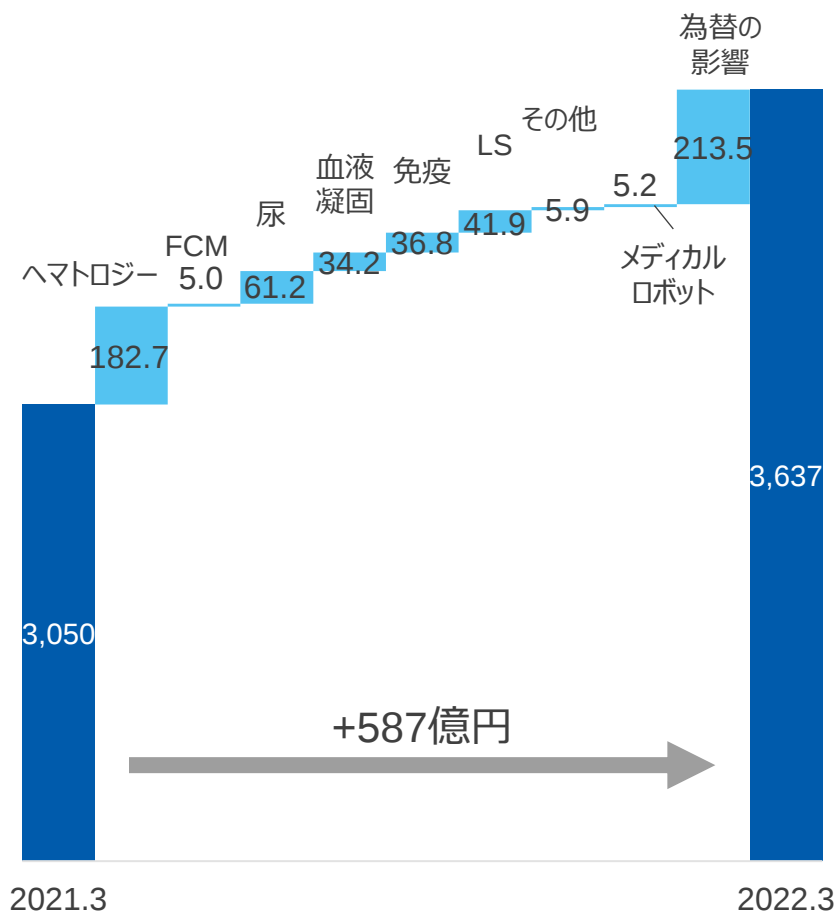
青字：2022年3月期の新たな取り組み

- 試薬売上の伸長により、中国を除く全地域2桁成長を達成
- 北米におけるヘマトロジー機器需要回復と、アライアンスを活かした尿分野の伸長
- 直接販売地域の拡大による伸長
 - ✓ ヘマトロジー：スペイン、ポルトガル
 - ✓ 血液凝固：中東、トルコ、東欧、ロシア
- 重点市場と位置付けたインドのヘマトロジー売上の伸長
- 医療インフラ強化に関わる入札案件の獲得
 - ✓ 東欧、ロシア、フランス、インドネシア、タイなど
- COVID-19 関連検査売上増（日本、EMEA）
- メディカルロボット事業の本格開始（日本）
- 円安によるポジティブ効果

売上高の増減要因（事業別）

事業別売上高

(億円)



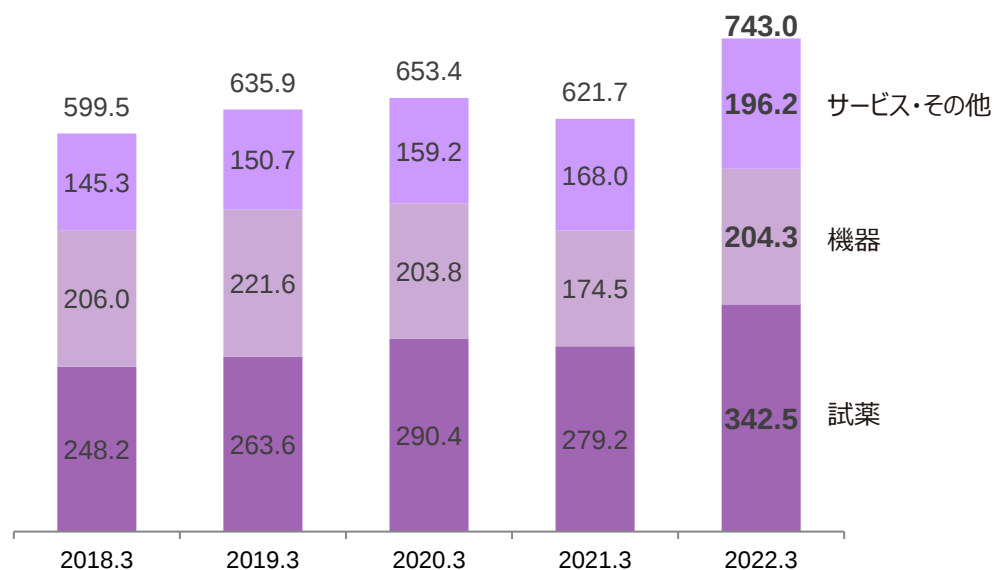
前年度好調の血液凝固以外の
主要分野はすべて2桁成長を実現

(億円)	2022年3月期		前年同期比	
	実績	構成比	円ベース	為替影響を除く
売上高	3,637.8	100.0%	119.2%	112.2%
ヘマトロジー	2,103.6	57.8%	116.8%	110.1%
FCM	20.7	0.6%	142.7%	135.0%
尿	299.7	8.2%	137.1%	128.0%
血液凝固	620.8	17.1%	114.3%	106.3%
免疫	204.1	5.6%	131.9%	123.8%
生化学	29.5	0.8%	105.7%	101.1%
ライフサイエンス	179.8	4.9%	138.1%	132.2%
その他	166.2	4.6%	108.6%	103.9%
ダイアグノスティクス事業	3,624.8	99.6%	119.1%	112.1%
メディカルロボット事業	12.9	0.4%	167.1%	167.1%

米州（地域別）

(Million USD)	2022年3月期	前年同期	前年同期比	
			現地通貨ベース	円ベース
売上高	743.0	621.7	119.5%	127.0%
機器	204.3	174.5	117.1%	124.5%
試薬	342.5	279.2	122.7%	130.4%
サービス・その他	196.2	168.0	116.8%	123.8%

売上高推移（Million USD）



COVID-19影響からの回復により、ヘマトロジー分野が好調に推移したことに加え、北米における尿分野の伸長もあり、大幅増収

● 機器

- ✓ COVID-19影響からの回復によりヘマトロジー分野が伸長
- ✓ 北米におけるシーメンス社との協業による尿分野が好調に推移

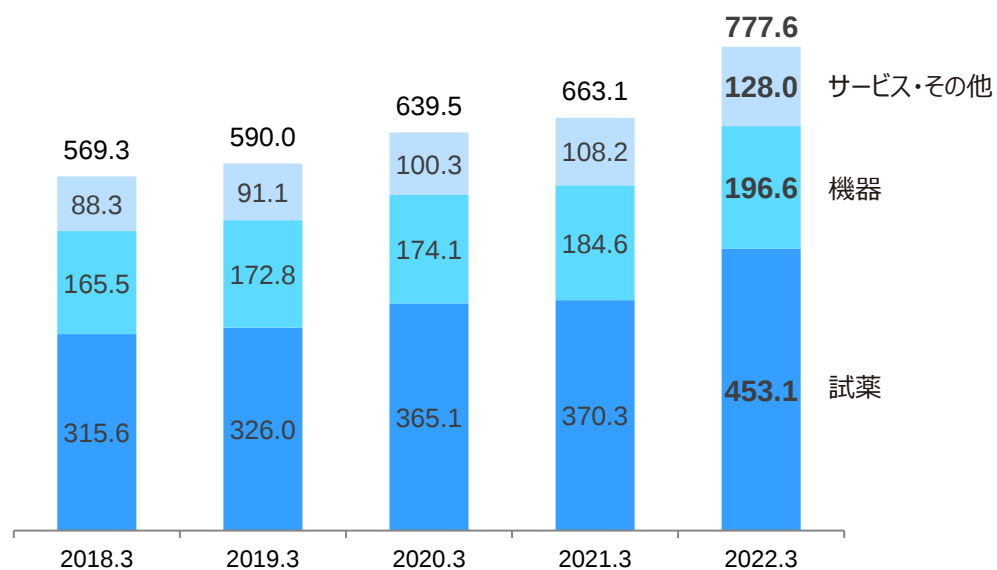
● 試薬

- ✓ 検査需要回復および機器売上の伸長に伴いヘマトロジー分野が北米、中南米にて好調に推移
- ✓ 北米におけるシーメンス社尿定性装置の導入・顧客移管および当社機器設置の増加により、尿分野が伸長

EMEA（地域別）

(Million EUR)	2022年3月期	前年同期	前年同期比	
			現地通貨ベース	円ベース
売上高	777.6	663.1	117.3%	123.6%
機器	196.6	184.6	106.5%	112.6%
試薬	453.1	370.3	122.4%	128.8%
サービス・その他	128.0	108.2	118.3%	124.6%

売上高推移（Million EUR）



直販効果に加え、COVID-19影響からの回復に伴い、機器・試薬とも好調に推移し、大幅増収

● 機器

- ✓ スペイン・トルコの直販エリアが好調に推移および医療インフラ投資が活発な東欧、ロシアにおける入札案件の獲得により、ヘマトロジー分野が伸長
- ✓ トルコにおいて直販により好調な血液凝固分野に加え、尿分野も伸長

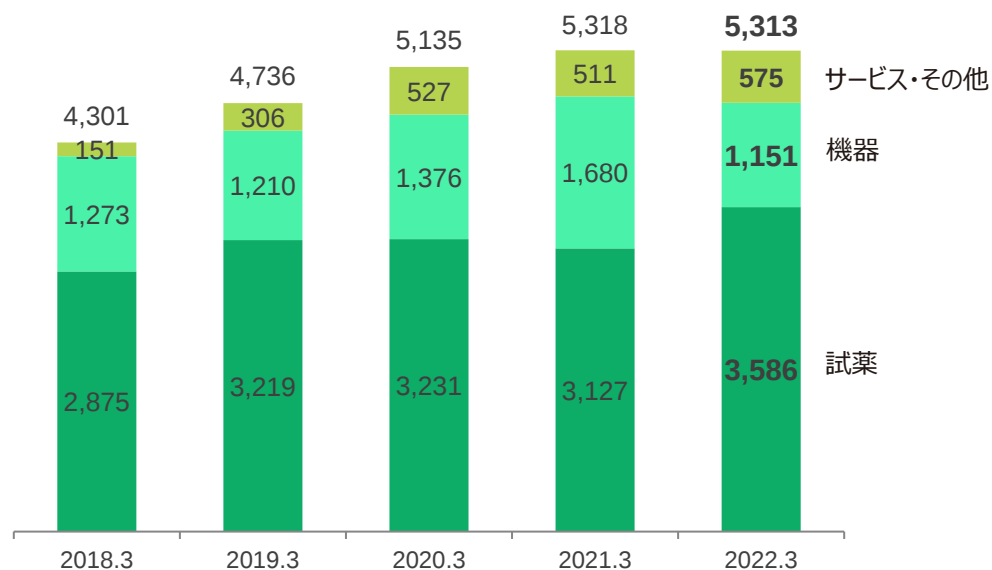
● 試薬

- ✓ 機器設置の増加およびCOVID-19関連検査により、試薬売上が大幅伸長
- ✓ 検査需要回復によるヘマトロジー・尿・血液凝固分野が大幅伸長

中国（地域別）

(Million CNY)	2022年3月期	前年同期	前年同期比	
			現地通貨ベース	円ベース
売上高	5,313.1	5,318.5	99.9%	111.4%
機器	1,151.3	1,680.3	68.5%	76.4%
試薬	3,586.0	3,127.2	114.7%	127.8%
サービス・その他	575.8	511.1	112.7%	126.0%

売上高推移 (Million CNY)



COVID-19影響からの回復などにより、試薬売上が好調に推移するも、機器売上の減収により、前年並みにとどまる

● 機器

- ✓ 医療インフラ投資により好調だった前年同期（尿・血液凝固・免疫分野）の反動、上海代理店の影響※および政府調達方針の影響（購入延期）により、減収

※上海の代理店から新代理店（従来の複数二次代理店）への切替は4Qに全て完了（2022年3月末）

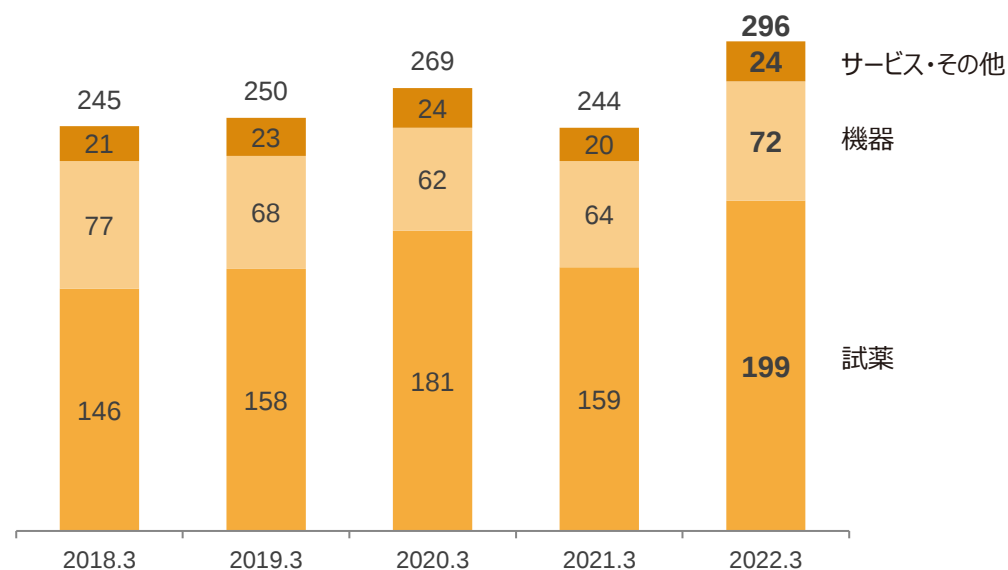
● 試薬

- ✓ 検査需要回復に加え、ヘマトロジー・尿・免疫分野において機器設置台数増加により、伸長
- ✓ COVID-19の感染継続により、重症化予測のための検査需要が増加し、血液凝固分野が伸長

(億円)	2022年3月期	前年同期	前年同期比 円ベース
売上高	296.0	244.5	121.1% (115.2%)
機器	72.3	64.8	111.5%
試薬	199.1	159.4	124.9%
サービス・その他	24.6	20.2	121.5%

*()は為替の影響を除いた場合

売上高推移（億円）



COVID-19影響からの回復に加え、機器設置台数増加に伴う試薬売上が伸長し、2桁増収

● 機器

- ✓ インドや韓国を中心にヘマトロジー分野が好調に推移
- ✓ タイなど東南アジアにおいて尿・血液凝固分野が伸長

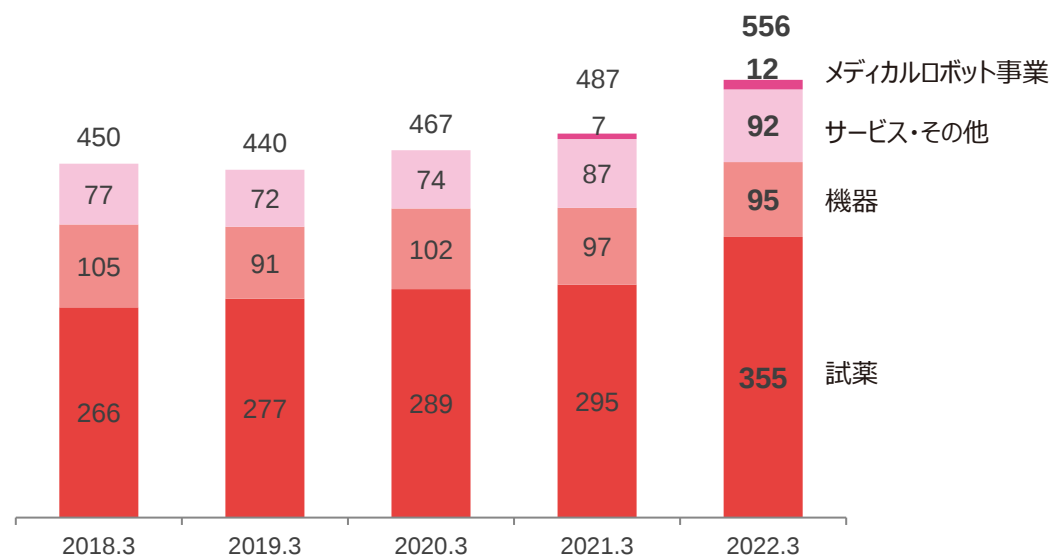
● 試薬

- ✓ 検査需要回復に加え、インドを中心にヘマトロジー・尿・免疫分野の機器設置台数増加により、伸長
- ✓ インドネシアや韓国などで、COVID-19感染継続により、重症化予測のための検査需要が増加し、血液凝固分野が伸長

日本（地域別）

（億円）	2022年3月期	前年同期	前年同期比 円ベース
売上高	556.1	487.5	114.1%
ダイアグノスティクス事業	543.2	479.8	113.2%
機器	95.0	97.4	97.6%
試薬	355.2	295.3	120.3%
サービス・その他	92.9	87.0	106.8%
メディカルロボット事業	12.9	7.7	167.1%

売上高推移（億円）



検査需要の回復および機器設置台数増加などにより試薬売上が好調に推移したことに加え、メディカルロボット事業の売上も貢献し、増収

ダイアグノスティクス事業

● 機器

- ✓ COVID-19関連検査需要による免疫分野の伸長のほか、尿およびライフサイエンス分野が好調に推移
- ✓ XR™シリーズの導入が進むも、前年同期の検査センター向け大型案件の影響などにより、減収

● 試薬

- ✓ 検査需要の回復およびCOVID-19関連検査売上により、主要分野はすべて増収

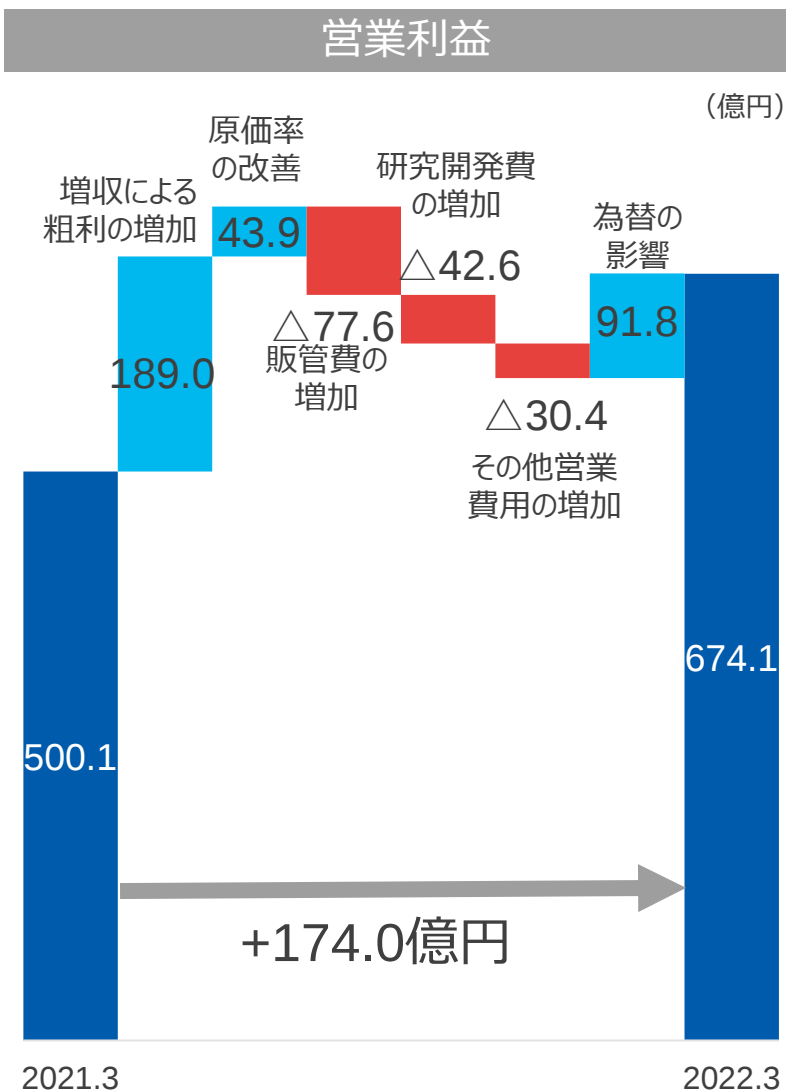
メディカルロボット事業

● 販売開始以来の累計導入台数18台※

※販売スキームにより、売上計上の額や時期および期間が様々であり、導入台数と売上高は比例いたしません。

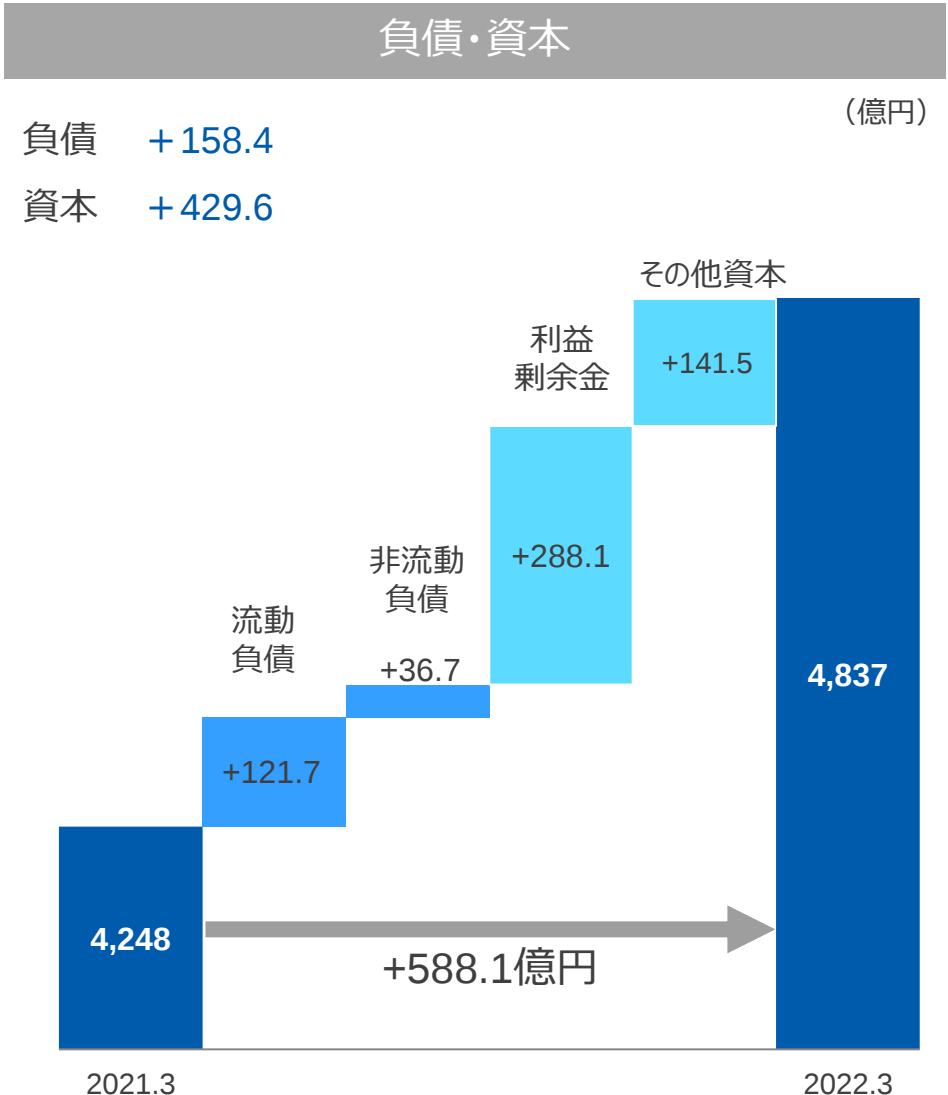
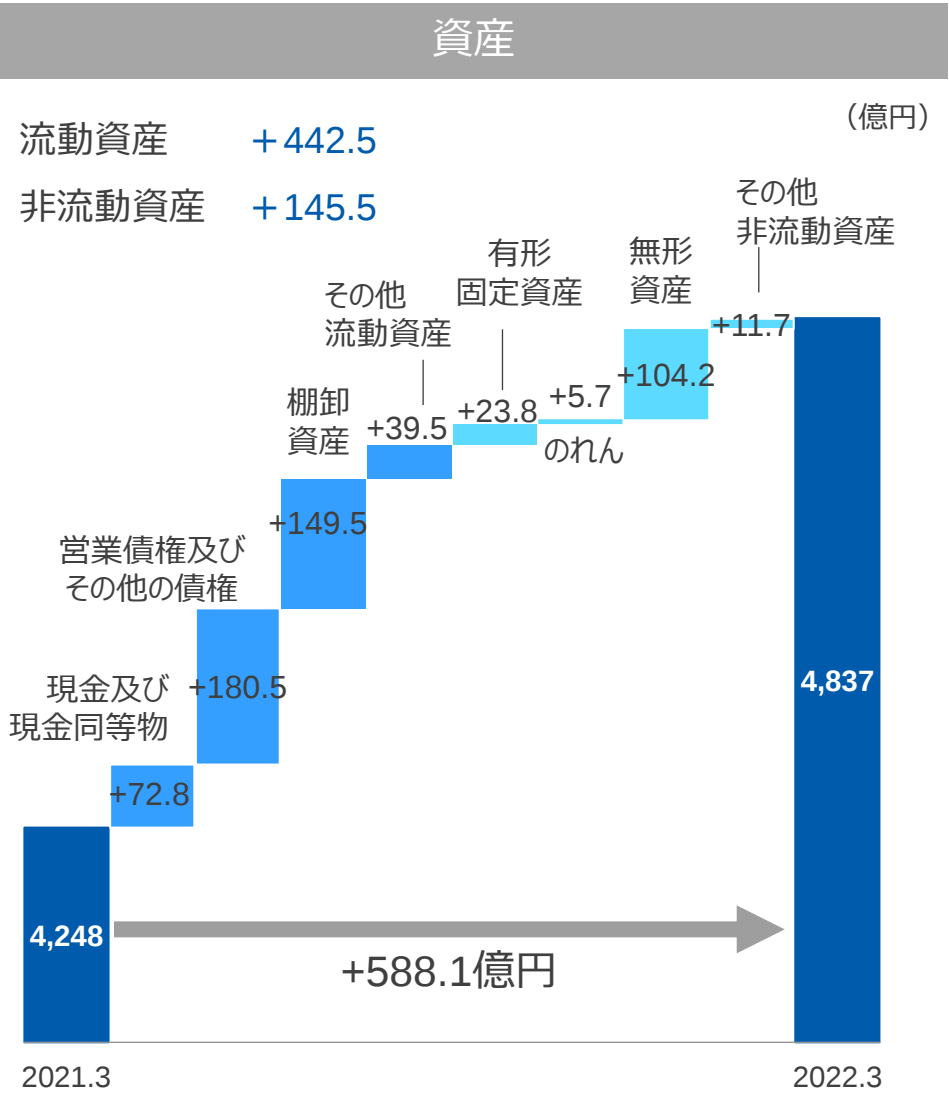
営業利益の増減要因

※下記数値・コメントは為替の影響を除く

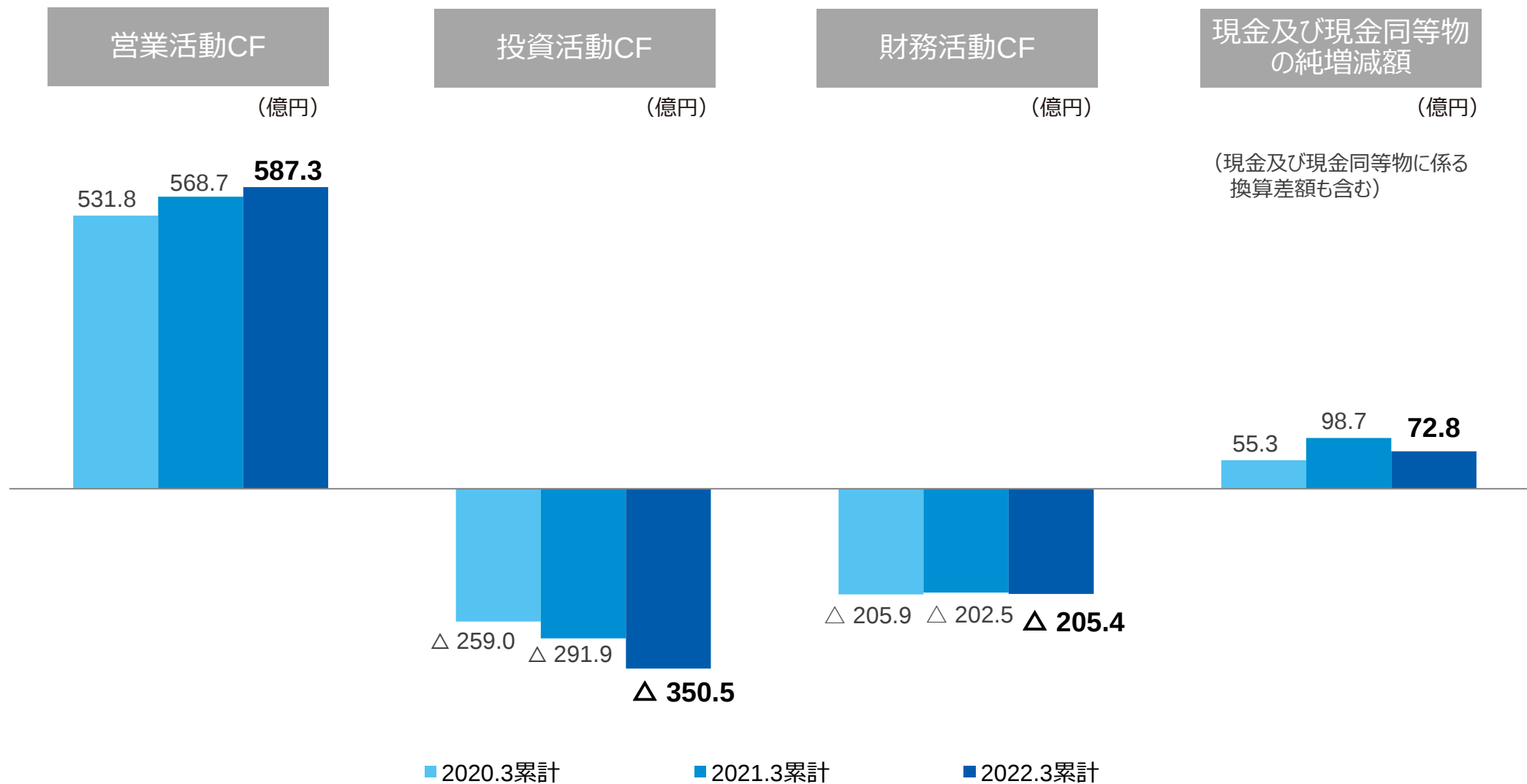


- 増収による粗利の増加：189.0億円
- 原価率改善による影響：43.9億円（1.3pt 改善）
 - ・ 輸送費高騰など悪化要因はあるも、試薬売上の構成比の増加などにより、改善
- 販売管理費の増加：77.6億円
 - ・ 各地域の販売・サービス活動再開および直販体制強化などによる経費増加
 - ・ デジタル化やメディカルロボット事業関連費用の増加
- 研究開発費の増加：42.6億円
 - ・ 製品開発への継続投資および薬事関連費用による増加
- その他営業費用の増加：30.4億円
 - ・ 外部委託倉庫の火災に伴う一時費用
 - ・ 無形資産の減損
- 為替の影響：91.8億円のプラス影響

連結財政状態計算書の増減要因



キャッシュフローの推移



トピックス（2021年4月～2022年4月）

ダイアグノスティクス事業

- COVID-19の重症化リスク判定補助として、TARC測定キットの適応追加承認取得（日本：6月）
- 尿分野機器（ノックダウン生産方式）の薬事承認取得（中国：12月）
- 脳内アミロイドβの蓄積状態の把握を補助する検査試薬の製造販売承認申請を完了（日本：12月）
- **免疫検査分野の成長加速に向け株式会社カynosとの資本業務提携に合意（日本：2月）**
- **成長市場での事業拡大を目指し、サウジアラビアに現地法人を設立（EMEA：2月）**
- **免疫分野の試薬を18項目（腫瘍マーカーなど）新たに販売開始（中国：12月、3月） ※導入済項目数：37項目**
- **シンガポールに新たな研究開発拠点（RDCAP）を新設（AP：2022年4月）**

メディカルロボット事業

- 手術支援ロボットシステムの婦人科、消化器科への適応拡大申請を完了（日本：10月）

サステナビリティ経営

- ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・ワールド・インデックスに6年連続選定（11月）
- ヤマトグループとドライアイスフリーによるマイナス70度超低温帯輸送（遺伝子検査用試薬）を開始（日本：12月）
- **プライム市場へ移行（日本：2022年4月）**

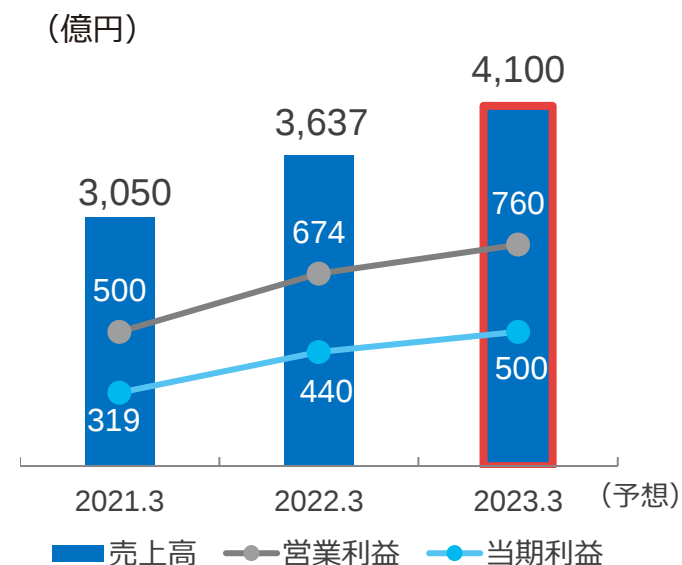
2.

2023年3月期 業績予想

連結 通期業績予想

(億円)	2023年3月期		2022年3月期		伸長率
	予想	構成比	実績	構成比	
売上高	4,100	100.0%	3,637	100.0%	+12.7%
販売管理費	1,130	27.6%	942	25.9%	+19.9%
研究開発費	335	8.2%	267	7.4%	+25.1%
営業利益	760	18.5%	674	18.5%	+12.7%
親会社の所有者に 帰属する当期利益	500	12.2%	440	12.1%	+13.4%

投資計画	設備投資 418億円	減価償却費 325億円
------	------------	-------------



● 想定為替レート

	通期想定	前期実績 (22年3月期)
1 USD	120.0円	112.4円
1 EUR	130.0円	130.6円
1 CNY	18.0円	17.5円

● 為替感応度の概算値

	売上 (年間)	営業利益 (年間)
USD	7.8億円	1.7億円
EUR	5.6億円	1.6億円
CNY	57.9億円	40.4億円

● 売上高

- ✓ 2桁成長の継続、米州、EMEA、中国は1,000億円規模まで成長
- ✓ XRシリーズと搬送システムの上市（日本、EMEA、AP）
- ✓ 北米における尿ビジネスの伸長
- ✓ サウジアラビアの直販やブラジルの販売体制強化による伸長
- ✓ 中国の機器売上の回復および免疫試薬項目の拡充による伸長
- ✓ hinotori™の導入加速（日本：45台導入予定）

● 営業利益

- ✓ COVID-19で抑制された活動の再開および積極的な投資※を継続するも、粗利増・原価低減などにより、2桁増益
- ※研究開発費、グローバルな薬事申請活動、デジタル化への投資

● 外部環境の想定

- ✓ 検査需要の伸長、医療インフラ投資の継続
- ✓ 円安基調の継続
- ✓ COVID-19検査需要は減少傾向
- ✓ 原材料価格などの高騰
- ✓ 地政学的リスクの直接的な影響は引き続き軽微

年間配当予想

- 2022年3月期は、前期から**4円**、公表から**2円増配**の **76円**※
- 2023年3月期予想は、**4円増配**の **80円**
- 引き続き安定的かつ継続的な還元を実施

2021年3月期

72円
期末 36円
中間 36円

4円増配

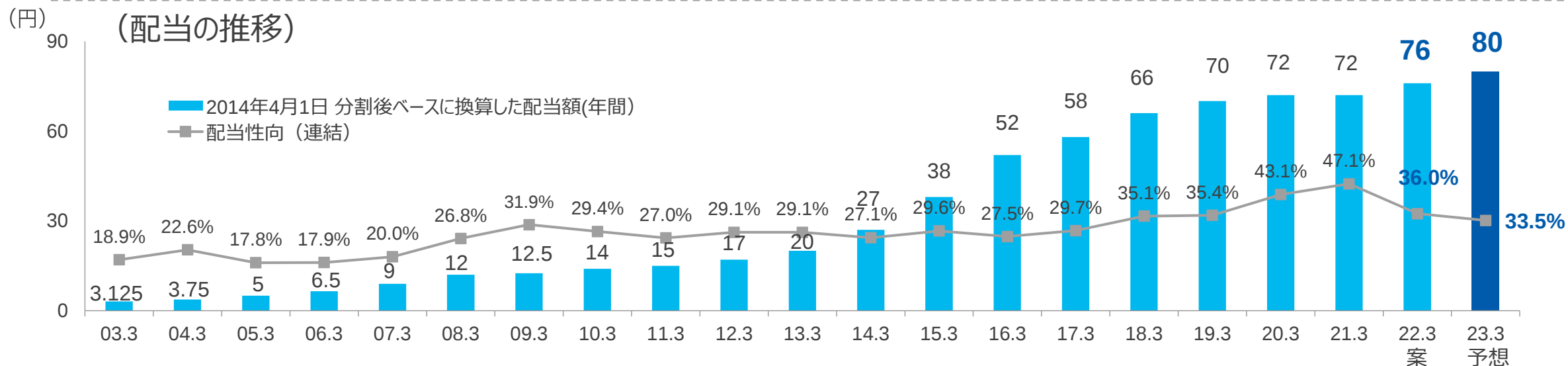
2022年3月期（案）

76円
期末 39円
中間 37円

4円増配

2023年3月期(予想)

80円
期末 40円
中間 40円



※2022年3月期の期末配当は定時株主総会に付議する予定

中・長期的な成長に向けた新たな取り組み

- 中長期的に大きな成長が期待できる新興国における市場開発
 - ✓ 市場ニーズに対応した製品の投入、販売・サービス・生産等の強化
- Astrego : 薬剤感受性試験、薬剤耐性菌抑制への取り組み
 - ✓ Astrego社の株式追加取得による100%子会社化（2022年5月2日）
 - ✓ 2022 年3月に CE-IVDDの自己宣言を完了し、2023年3月期は欧州におけるテストマーケティングを推進予定
- アルツハイマー型認知症診断への取り組み
 - ✓ 米国でのLDT（Laboratory developed testing）の早期実現に向けて取り組み中
 - ✓ 日本では、2023年3月期中の製造販売承認取得を想定
- メディカルロボット事業のグローバル展開
 - ✓ 早期の海外展開に向けた活動を実施中（米国、欧州、アジア・パシフィック）
- サステナビリティ経営の推進
 - ✓ サステナビリティ経営の実現に向け、新たな長期経営戦略を策定（2023年5月に公表予定）

A solid blue square located on the left side of the slide.

(補足資料)

会計方針変更の影響（2021年3月期）

クラウド・コンピューティング契約におけるコンフィギュレーションまたはカスタマイゼーションのコストについて、「その他の非流動資産」の計上から、サービスを受領したときに「販管費」として計上する方法へ変更し、2021年3月期に遡及適用。

2021年3月期 (遡及前)			2021年3月期 (遡及後)		
	構成比			構成比	
売上高	3,050.7	100%	3,050.7	100%	
売上原価	1,507.7	49.4%	1,507.7	49.4%	
販売費及び 一般管理費	808.3	26.5%	826.2	27.1%	
研究開発費	225.1	7.4%	225.1	7.4%	
その他営業損益	8.4	0.3%	8.4	0.3%	
営業利益	517.9	17.0%	500.1	16.4%	
親会社の所有者に 帰属する当期利益	331.4	10.9%	319.0	10.5%	

単四半期業績推移（2022年3月期）

機器の売上構成比増加により原価率が悪化するも、
売上伸長による粗利の増加により、4Q単営業利益は増益

1Q (4月-6月)				2Q (7月-9月)				3Q (10月-12月)				4Q (1月-3月)				(億円)
		構成比	対前年 伸長率			構成比	対前年 伸長率			構成比	対前年 伸長率			構成比	対前年 伸長率	
売上高	793.6	100%	131.2%	893.9	100.0%	124.9%	901.4	100.0%	113.0%	1,048.7	100.0%	112.5%				
売上原価	374.7	47.2%	125.4%	414.5	46.4%	118.8%	425.9	47.2%	110.8%	516.7	49.3%	108.7%				
販売費及び 一般管理費	215.0	27.1%	113.6%	225.6	25.2%	117.8%	231.9	25.7%	115.2%	269.7	25.7%	110.5% (115.9%)				
研究開発費	54.9	6.9%	111.8%	61.1	6.8%	126.5%	67.0	7.4%	121.4%	84.6	8.1%	116.9%				
その他営業損益	1.6	0.2%	92.4%	△5.9	△0.7%	-	△15.0	△1.7%	-	△2.1	△0.2%	-				
営業利益	150.5	19.0%	216.3%	186.5	20.9%	143.0%	161.5	17.9%	101.6%	175.4	16.7%	124.4% (115.1%)				
親会社の所有者に 帰属する当期利益	99.9	12.6%	222.7%	122.5	13.7%	150.0%	106.5	11.8%	100.2%	111.9	10.7%	129.9%				

※()は会計方針変更の影響を除いた場合の伸長率

所在地別実績（売上高・営業利益）

（億円）

		2022年3月期	前年同期	前年同期比	
				円ベース	現地通貨ベース
米州	外部売上高	789.6	615.0	128.4%	120.8%
	営業利益	46.2	25.1	184.1%	171.6%
EMEA	外部売上高	1,024.1	828.5	123.6%	117.3%
	営業利益	123.1	100.8	122.1%	116.1%
中国	外部売上高	932.9	837.3	111.4%	99.9%
	営業利益	115.7	50.6	228.4%	206.0%
AP	外部売上高	293.6	243.1	120.8%	-
	営業利益	21.7	21.3	102.0%	-
日本※	外部売上高	597.4	526.7	113.4%	-
	営業利益	382.4	286.5	133.5%	-

※IDEXX社等含む外部売上高

Lighting the way **with diagnostics**